

はにい「学校のために私たちができること」

平成31年1月25日

「卒業に向けて、学校のためになるプロジェクトを立ち上げよう！」6年生の総合的な学習の時間。「校舎にカーブミラーをつける」、「校庭にベンチを作る」、「わかりやすい校舎案内版を作る」の3つの案について、児童たちの熱い議論が続いている。

「廊下にカーブミラーがつけば、廊下での衝突事故が減るし、ケガをした人のために設置しようとしている校庭のベンチも必要なくなると思うんだ。」

「でも、学校じゃないところで怪我をした人は、ベンチがないと困るんじゃないかな。」

「怪我をした人だけが座るわけじゃない。お年寄りのためにもあった方がいいよ。」



先生が何も言わなくても、児童たちは自分たちで話し合いを進めていく。

「カーブミラーって、取り付けたら活動はそれでおしまいだけど、ベンチは私たちが作るから、困っている人の役に立つという達成感がカーブミラーよりあると思う。」

「でもさ、私たち28人の達成感を取るか全児童500人の安全を取るかって言われたら、私たちの達成感よりみんなの安全を重視すべきだよ。」……

議論が白熱する中、先生が、こう切り出した。

「ずっと話し合っているわけにはいかないよね。一つのプロジェクトに絞る決め手は何？」

「うーん……。全然まとまらなくて……。どうすればいいか……。」

「じゃあ、何を大切に決めていくべきと思うか、考えてごらん。」

じっと考え込む児童たち。それでも、少しずつ、ノートに考えを書いていく。先生は、児童たち一人ひとりに、丁寧に言葉をかけていく。

「私は、『安全性』を大切にしたい。カーブミラーをつけたことで、怪我人が減るということも、達成感の一つじゃないのかな。」

「私は、『便利さ』が大切だと思う。ベンチは普段だけでなく災害時でも役に立つと思う。」

チャイムが鳴っても、話し合いは止まらない。プロジェクトを一つに絞る難しさに直面した児童たちの話し合いは、明日に持ち越しとなった。



『はにい』はコミュニケーションツールです。 みんなで語り合しましょう。

ご意見・ご感想は → inochi4027@pref.kanagawa.jp